現場レポート

パリ事務所

Bon appétit!「おにぎり」や「日本酒」が日仏の懸け橋に！
～天皇誕生日祝賀レセプションに出展～

（一財）自治体国際化協会パリ事務所　所長補佐　阿久津　佑介（総務省派遣）

天皇誕生日祝賀レセプション

パリにある在仏日本大使公邸では天皇誕生日に近い適当日に、大使が任地の各界ハイレベルの関係者を招待し「天皇誕生日祝賀レセプション」（以下、「本式典」という。）を開催しています。本式典は、外交行事としての性格に留まらず、「オールジャパン」での日本の魅力発信と位置付けられ、会場では和牛などの日本の食文化の紹介が行われるほか、日本の地方自治体による輸出振興、観光客誘致などのPR活動を行う場としても活用されています。

今年も500人を超える来場があり、パトリック・カネール上院議員（上院仏日友好議連会長）のほか、各界の著名な関係者が出席し、下川大使をはじめとした日本政府・自治体関係者などとの相互の絆を深めました。

挨拶をする下川眞樹太在仏日本国大使

クレアパリブース出展の意義・目的

毎年、クレアパリは、在仏大使館からの要請を受け本式典にブースを出展しています。その意義・目的は、大きく以下の３点に集約できます。

①日本の地方自治体のプレゼンスを向上すること

本式典は、日本の地方自治体の個性豊かな魅力を直接プロモーションできる貴重な機会です。来場者の多くは、既に日本に訪れたことがあり、日本に関する「新たな発見」を期待しブースに訪れる傾向にあります。そのため、あえてマニアックな観光名所、伝統工芸、食文化、特産品などの「地域資源」を紹介することにより、地域のブランド力を一層高める展示を心掛けています。

また、本式典には、日本の地方自治体と姉妹都市交流を結ぶフランスの地方自治体の首長なども訪れます。その際は、両自治体の交流が継続的・実りあるものとなるよう、クレアパリはできる限りのサポートを行う旨を伝えています。

ブースにはパンフレットや日本酒、おにぎりなどが並ぶ

②食文化・伝統文化を「体験」できるということ

今年は、パンフレットの配布に加えて、参加自治体からの要望に応じ、日本酒や玄米茶、おにぎり、和菓子のほか、金箔の絵柄を絵葉書に貼る体験キットの提供を行いました。文字や写真の情報だけで地域の特性を理解させようとするのではなく、試食などを通じ、味覚や嗅覚などによる「体験」をしてもらうことにより訴求力を高め、来場者の印象に強く残るようなプロモーションを実施しています。

日本酒を説明書きとともに提供

③在仏日本企業や他の政府機関などとの連携強化

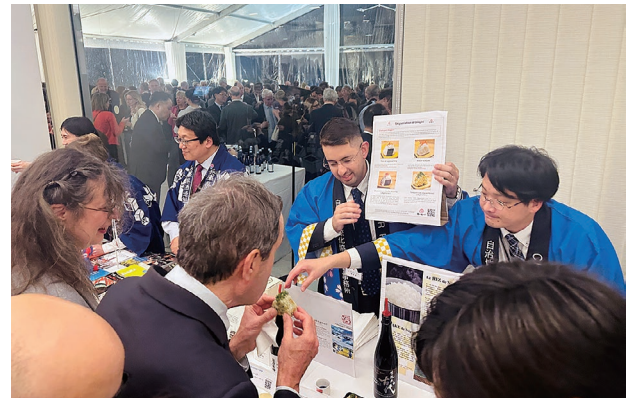
本式典には、日本企業に加え、JETRO（日本貿易振興機構）、JNTO（日本政府観光局）、MCJP（パリ日本文化会館）などの政府系機関も多数出展します。普段は異なる役割を担うこれらの主体も、在仏日本大使館を中心に「日本の魅力をフランスに広く発信し、関係を強化する」という共通の目的で協力体制を築きます。クレアパリとしては、こうしたネットワークの構築が、ひいては日本の地方自治体への支援強化にもつながると考えており、本式典に出展する意義は大きいと感じます。

おにぎりをきっかけとして

昨年に引き続き、クレアパリブースにおいてひときわ注目を集めたのは新潟米を使った「おにぎり」の試食（新潟市）でした。パリに複数ある「おにぎり専門店」の１つでは新潟米を使ったおにぎりが提供されており、この美味しさを体験してもらうことを通して新潟市を知ってもらいたいとの願いから、同店舗のおにぎりを提供しました。当日は４種類（牛すき焼き、ツナ・フライドオニオン、青のり天ぷら、梅しそ）計 200 個のおにぎりが用意され、多くの来場者が手に取りました。

説明書きを見ながらおにぎりを手に取る様子

「新潟県産の米を使用している」と伝えると、「新潟はどこにある？」などの質問があり、そうした来場者には観光パンフレットを見せながら、地域の観光名所を紹介したり、同じく新潟市が提供した日本酒や玄米茶も米から作られていることを説明しました。食を楽しむ文化が定着しているフランスでは、「食」から地方自治体の PR にアプローチする方法が非常に関心を集めやすいと感じました。


おにぎりの魅力を積極的に PR する様子

より効果的な自治体 PR を目指して

自治体 PR の場面では、来場者と出展者の双方向のコミュニケーションを築くことが理想です。体験型プロモーションを通じ、来場者の興味関心や疑問に答える形で日本の地方自治体を紹介する手法は、曖昧だったイメージを鮮明にし、地域産品や観光資源の認知度向上や「新潟の米」などブランド価値の確立に有効です。

本式典では、おにぎりという小さな一品が、日仏の距離を超え、来場者の心を掴む瞬間を目の当たりにしました。クレアパリでは今後もこうした瞬間を１つでも多く積み重ねていけるよう、パンフレットの配布だけに留まらない、創意工夫に富んだプロモーションを日本の地方団体と協力して行っていきます。

来場者との会話を大切にする所長補佐（新潟市派遣）